

ビヨンドトゥモロー  
活動ハイライト

2021 - 2022年度 (4月 - 3月)

Activity Highlights April 2021- March 2022



困難に負けない

逆境を糧に、共に学ぶ

視野を広げる

## Index

- P.4 ご挨拶
- P.5 2021年度 活動ハイライト
- P.11 卒業生たち
- P.17 役員・支援者からのメッセージ
- P.18 ご支援のお願い

ビヨンドトゥモローの  
仲間と出会ったことで、  
自分自身と向き合うことを改めて  
学ぶことができました。

ただ自分の欠点を悲観するのではなく、  
今の自分と目標をどのように繋げるかを学んだり、  
誰かと一緒に共通のゴールを目指して  
切磋琢磨したりする面白さ  
を感じることができました。



私は里親家庭で幼少期から育っているので、  
ビヨンドトゥモローの仲間と出会う前は  
あまり似た境遇の同世代の方と関わる事がなく、  
境遇の事で悩み苦しんでいるのは自分だけだと思い、  
孤独感を感じていました。

ビヨンドトゥモローの仲間と出会い、  
バックグラウンドをシェアする事によって、  
似た境遇で育った仲間がいる  
という事を実感でき、皆も未来を向いて頑張っているんだから  
自分もいい加減過去じゃなく  
未来を見て頑張らなきゃいけないな  
と感じ、前を見ることが出来ました。



5月 スプリング・プログラム (オンライン)

困難を経験した子どもたちの才能を守り引き出していくことが、  
社会の基盤を強めることになると考え、  
粘り強く支援を続けていきます。

一般財団法人教育支援グローバル基金

代表理事 橋本 大二郎 (元 高知県知事)



ビヨンドトゥモローは、創設から10周年を迎え、今年度からは、新たな10年に向けて歩みを始めました。これまで、ビヨンドトゥモローと深いつながりをもってくださった方々にはもとより、あまりご存知なかった方にも、一歩踏み込んで、ビヨンドトゥモローを支える仲間になっていただきたいと願っています。

ビヨンドトゥモローはこの10年の間に、創設チームの一人で、長く事務局長を務めてくれたスタッフの獅子奮迅の活躍で、「逆境は優れたリーダーをつくる」との旗印のもと、人材育成に向けた数々のプログラムを積み上げてきました。それを通じて、ビヨンドに参加してくれた若者に、自分を見つめ、自らの進むべき道を見つけ出す機会を提供することが出来ましたし、多くの方から活動への評価をいただきました。

その上に立って、これからの10年は、若いメンバーを軸にして、持続的な運営の仕組みづくりを目指していきたく

と思います。折しも10年の区切りをもって、創業時を支えてくれたスタッフが、いったんビヨンドを離れますが、それを機に、これまでビヨンドで数年を共にした“卒業生”たちが、活動を支えてくれることになりました。ファンドレイジングや同窓会組織の立ち上げなど、後輩の現役生を支える、多方面の取り組みを考えてくれています。

コロナ禍の下、虐待、貧困、一人親の世帯など、課題を抱える子は数多くいますが、そうした子どもたちが可哀そうだからではなく、彼らの才能を守り引き出していくことが、社会の基盤を強めることになるとの思いから、粘り強く支援を続けていきます。どうか多くの方々に、この支援の輪の中に入って、ビヨンドの子どもたちの成長を見守っていただきたいと思います。

## 人材育成事業

コロナ禍での対面プログラム開催

## 『ビヨンドトゥモロー サマー・プログラム 2021』

2021年 8月 (東京開催)

新型コロナウイルスの影響により、オンラインでのプログラムが中心となる中、8月に今年度初めての対面型研修『サマー・プログラム 2021』を感染防止対策を徹底のうえ開催しました。会場に来られない仲間とはオンラインでの繋がりを作りました。

「レジリエンスの高い社会の実現のために私たちに何ができるか」をテーマに、ディスカッションやスピーカーセッションを通して考えを深め、チームごとに提言を作成しました。最終日には、設立から10周年の節目としての記念イベントも開催し、ビヨンドトゥモローに参加経験のある卒業生が「社会で逆境を経験している他者のためにできること」についてのチーム発表を行いました。



最終日の  
提言発表



スピーカーセッションをもとにディスカッション



レクリ  
エーション  
(VR体験)



参加学生：ジャパン未来スカラシップ・プログラム5名、エンデバー10名(オンライン参加含む)、卒業生6名

スケジュール	
DAY 1 8月20日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーション</li> <li>・レクリエーション (VR体験)</li> <li>・ふるさと自慢コンテスト・体験共有</li> </ul>
DAY 2 8月21日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・提言発表テーマ発表・ディスカッション</li> <li>・スピーカーセッション・プレゼン作成</li> <li>・中間発表会・東京バスツアー</li> </ul>
DAY 3 8月22日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・提言発表会・10周年記念イベント</li> <li>・ゲストスピーチ</li> </ul>

## 参加学生の声 /

色々な考えとかバックグラウンドを持つてる人と考えが共有できて、自分の世界が広がった気がしました。楽しく勉強できたなと思います。

コロナ禍ではありましたが、それぞれがこの機会を自分にとって充実したものになるよう、意識的に色々な話ができて、よかったなと感じました。こういった機会をいただけて嬉しかったです。

オンライン参加になってしまいましたが、有意義な活動になったと思います。また直接会える機会があると嬉しいです。

# 『沖縄スプリング・プログラム 2022』

2022年3月（沖縄開催）

2022年3月22日～25日の4日間、ビヨントゥモロー 2021年度と2022年度奨学生を対象に「ビヨントゥモロー沖縄スプリング・プログラム 2022」を開催しました。32名の高校生・大学生が沖縄に集まり、現地ゲストをお招きしてのスピーカーセッションやフィールドワークをしながら、沖縄の歴史や貧困などの社会課題、そして多様性について考えを深めました。社会的、経済的に生きづらさを抱えるマイノリティの声が反映される社会の実現について、様々な議論を交わしました。最終日には「真のダイバーシティに向けて私たちができること」について提言を発表しました。



参加学生：2021年度生 15名、2022年度生 17名

スケジュール	
DAY 1 3月22日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーション</li> <li>・アイスブレイキング</li> <li>・体験共有</li> </ul>
DAY 2 3月23日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フィールドワーク（糸数豪、平和の礎、待学園を訪問）</li> <li>・ゲストレクチャー・提言作成</li> <li>・ディスカッション・中間発表会</li> </ul>
DAY 3 3月24日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・提言発表会</li> <li>・シュノーケリング体験</li> <li>・バーベキュー</li> </ul>

## 参加学生の声 /

画面越しと実際に面と向かって話すのとは全然違いました。同じ班員も自分も、画面越しより素直に話すことができたと思うし、体験共有をしたことでより話しやすくなり、提言発表に向けての話し合いもスムーズにできたと感じています。

最後の閉会式では振り返りの動画やみんなの感想をきいて、涙が止まりませんでした。自分の過去や環境を恨み自信がなかった私でも、何も気にせず話せる仲間が出来て、その仲間たちと自分たちが置かれている環境・問題に向き合い話し合うことができるなんて、2年前の自分からは想像もつきません。

# 活動 10周年をむかえて ～特設サイト、記念誌、動画制作～

2021年度はビヨントゥモローが発足した2011年から、ちょうど10年となる節目の年でした。ビヨントゥモローでは、10年の活動を振り返るため、ホームページでの特設サイト開設や、10周年記念誌を制作しました。また卒業生に当時を振り返ってもらい、ビヨントゥモローで得たもの、自身の成長について語ってもらう動画を卒業生が主体となり制作しました。

プログラム参加者数



3147人※

ビヨントゥモローが実現した人材育成プログラムに一度でも参加したことのある高校生・大学生は3000人を超えました。東日本大震災の支援で始まった当初は被災した学生のみを対象としていましたが、その後支援の対象を広げ、現在では日本全国から学生が集まるようになりました。

奨学生数



149人※

2020年度までに、149名の高校生、大学生に奨学金支給と年間を通じたリーダーシッププログラムを提供。毎年、数百の応募がある中から、面接を経た20名前後の学生に対し、国内、海外での研修や、奨学金支給、キャリアサポートなど、様々な機会を提供してきました。限られた人数にはなりますが、一人一人の成長に寄り添うサポートをしてきました。

寄付額



約6億3680万円※

2011年の発足から、皆様の多大なるご支援・ご協力により、これまで様々な学生と出会い、その成長を見守ることができました。奨学金や人材育成プログラムという機会を得た学生達のその後の人生は千差万別ですが、その後には歩道に正否は無いと思っています。これからもビヨントゥモローは寛容で多様な社会の実現に向けて、長い道のりを歩んでいきます。

※ 2011～2020年度



## 10周年特設サイト

より多くの方々にこれまでの取り組みを知っていただくため、ホームページに特設ページを開設しました。これまでビヨントゥモローを応援して下さった方々にお送りした10周年記念冊子から、特集記事や代表理事のご挨拶をピックアップし紹介しています。また、現役生や卒業生達による、これまでにビヨントゥモローに参加した学生にインタビューを行った制作動画もこちらからご覧いただけます。



## 10周年記念誌

東日本大震災をきっかけに発足したビヨントゥモロー。ファウンダーへのインタビューをはじめ、発足に関わった人々がどのように集まり、どのような想いでビヨントゥモローというプロジェクトをスタートするに至ったのか、当時を振り返ります。また、ビヨントゥモローの評議員山崎直子氏（宇宙飛行士）、アドバイザーの竹中平蔵氏（慶應義塾大学 名誉教授・東洋大学教授）や、卒業生と現役生を交えた座談会や、ビヨントゥモローに参加した学生が、参加によって得た学び、これからへのメッセージなど、様々なコンテンツでこの10年の活動を振り返りました。

\* 10周年記念誌の郵送をご希望の方は info@beyond-tomorrow.org までお問合せ下さい。



## 動画制作

2011年の発足から、支援対象を自然災害によるものだけでなく、ひとり親家庭や生活保護受給世帯、児童養護施設や里親家庭などの社会的養護の下に暮らすなどの困難を抱えた全国の学生に広げ、活動を続けたこの10年を、ビヨントゥモローに参加した卒業生および現役生とともに振り返ります。この動画は、企画、制作、そしてナレーションに至るまで、ビヨントゥモローの現役生と卒業生がチームを組んで携わり、完成させました。

出演：佐藤迅、大山貴史、叶響  
企画・制作：稲村ほのか、町中大悟、上澤洋  
撮影・編集：澤田万尋  
ナレーション：今井友理恵

## オンライン・プログラム

2020年から続く新型コロナウイルスの影響により、2021年度も対面での活動が大幅に制限された年となりました。仲間同士が互いの体験を話し合う事で感じられる『安心できる居場所』、仲間だけでなく、多様な領域で活躍する『リーダーとの出会い』、様々な価値観をぶつけ合いながら作り上げる『提言発表の場』など、人と人が出会い、前を向ききっかけを作ってきたビヨントゥモローの存在意義が試される中、オンラインでのプログラム作りの試行錯誤が始まりました。

### 『逆境に負けないプログラム作り』

どのようなプログラムであれば互いを知り、オンライン上であっても信頼できる仲間や居場所が作れるのか。どのようなプログラムテーマであれば、移動の制限がある中でも世界に視野を広げることができるのか。チームで意見を一つにまとめ、発表にまでつなげる構成が作れるか。そして、学生一人ひとりが社会で活躍するリーダーやロールモデルから何かを学び取ることができるのか…。

試行錯誤の中、スタッフや社会人ボランティア、学生フェロー達が知恵を出し合い、年間を通して月に1回のペースでプログラムを実施することができました。



一年間のオンラインプログラムの運営を通して、実際に近くにいなくても、共に体験して学びを深め合えるということがわかりました。

コロナ禍においてはビヨントゥモローの運営においても逆境を経験しましたが、今後の人材育成事業において、新たな方法を見出すことができ、より発展したプログラム運営に繋げる事ができる貴重な機会となりました。



## コロナ禍での取り組み

新型コロナウイルスの収束が見通せない状況下であった2021年度、ビヨントゥモロー事務局では、感染予防対策においてスタッフが在宅勤務となり、奨学金助成事業や人材育成プログラムの提供などの業務をリモートで行いました。人材育成プログラムにおいても、海外研修は中止、国内研修も感染状況を見ながら、感染防止策を徹底の上、例年の半分の回数で実施しました。



その中で、オンラインでの交流を活発化させ、エンデバー、ジャパン未来スカラーシップ・プログラムでは、それぞれ月に1回の頻度でオンライン・プログラムを実施しました。自分自身を深掘りするワークや、様々な社会課題をテーマに取り上げ、解決に向けて行動を起こしている方や、国際機関で働く方に現地から中継していただいております。自分は何ができるかをディスカッションするなど、視野を広く持ち、自らの将来の可能性を広げるための学びを深めました。また、エンデバー・プログラムに参加する高校生には、通信環境の確保をするため、全員にタブレットを無償で提供しました。

## あしなが育英会様からの人的支援

あしなが育英会 安川 憂さんに2年間、出向としてビヨントゥモローに力を貸していただきました。

### 出向を終えて

あしなが育英会 安川 憂

あしなが育英会から出向として、ビヨントゥモローに参加したのはまさにコロナ禍に突入していく2020年の5月でした。ビヨントゥモローが強みとする対面での交流や国内外の現地体験での学びを制限された状態で、プログラムを提供していくことが私の最初のミッションでした。それは、ビヨントゥモローが提供する価値とはなにか？を考えることでもありました。毎回、職員、ボランティア、学生スタッフと協力してつくりあげたプログラムが、参加者たちから思ったような反応を得られないこともありましたが、試行錯誤の中で得た「ビヨントゥモローらしさ」は私自身の価値観にも大きく影響を与えました。



「逆境は優れたリーダーを創る」の理念に込められた若者たちへの大きな期待は、厳しさであり、彼らの可能性を誰よりも信じ抜く決意にあると思います。当たり前のことかもしれませんが、この決意が、いまでも大きな原動力となっています。2年間もの間、温かく受け入れていただきましたビヨントゥモローの皆様に深く感謝致します。本当にありがとうございました。

オンライン・プログラム  
年間実施回数

高校生・大学生  
共通プログラム 3回

高校生対象  
プログラム 5回

大学生対象  
プログラム 7回

## 奨学金 給付事業

# 『ジャパン未来スカラシップ・プログラム』 『エンデバー』

ビヨンドトゥモローは、進学のために必要な資金を、返済不要の奨学金として支給することで、高校卒業後の進路を切り開くためのサポートをしています。2021年度においては、前年の2020年度に数々の対面プログラムが開催見送りとなったことから、希望者全員に2021年度の人材育成プログラムへの参加機会を提供しました（奨学金支給は除く）。

## 『ジャパン未来スカラシップ・プログラム』 大学・短大・専門学校在籍者対象



高校卒業後、大学・短大・専門学校在籍者を対象に、返済不要の奨学金を支給しています。日本全国から、親との死別・離別を経験したり、児童養護施設に暮らすなどの困難を経験した若者が集い、返済不要の奨学金を受給しながら年間を通じた人材育成プログラムに参加しています。

2021年度の「ジャパン未来スカラシップ・プログラム 2021」には前年度からの継続者4名に加え、新たに4名の学生が新規参加者として選ばれ、1年間の人材育成プログラムに参加するとともに、年間50万円の給付型奨学金を受給しました（20年度生の継続者は除く）。

## 『エンデバー』 高校生対象



児童養護施設、里親家庭に暮らす高校生を対象に、進学準備に必要な受験費用を返済不要の給付型奨学金として支給しながら人材育成プログラムへの参加機会を提供する「エンデバー」を運営しています。虐待やネグレクトなど、様々な事情で保護された子どもたちが多い児童養護施設では、高校卒業後の進学率は約2割と全国平均を大きく下回りますが、「エンデバー」を通して、自分の未来を主体的に切り開く若者をサポートし、ロールモデルを育成することを目指しています。2021年度においては、ジャパン未来スカラシップ・プログラム同様、昨年度の継続受講者6名を受け入れ、21年度参加者6名の計12名を支援しました。そして、エンデバーに参加した全員が高校卒業後の進学を果たしました。

## 卒業生たち

ビヨンドトゥモローを巣立った卒業生たちは、それぞれの道で挑戦を続けています。一人ひとりが歩む道に成否はありません。どんな道を歩むとしても、ビヨンドトゥモローで過ごした時間が、その後の人生の旅路を照らす灯のひとつになることを願い、応援を続けます。

自分が置かれている環境は、  
沢山の人の支えによって  
成り立っているということに  
気付けた

日本タタ・コンサルタンシー・サービズ株式会社  
稲村 ほのかさん

高校生の時に、自分と同じく被災した経験をもつ人たちの話を聞きたいという思いと、視野を広げたいという思いからビヨンドトゥモローに参加しました。

ビヨンドトゥモローの活動で特に印象に残っているのは、2016年に全国の学生を対象に開催した「ジャパン未来リーダーズサミット」です。それまでは日本国内の問題に関心を持ったことがあまりありませんでしたが、色々な境遇を経験した他の学生たちと出会い、自分がどれだけ足元が見えていなかったかに気付かされました。また、環境に助けられて実現してきたことに対し、自分だけでやり遂げたと思込んでいたということにも気付かされ、衝撃を受けたプログラムでした。

今の就職先については、まだ勉強したいという気持ちが強かったので、今まで身に着けたことのないスキルを学んでみたいという視点でIT企業を選びました。4月に入社してからは、様々な研修を受けていますが、同期の人数がとても多く、またITなど、今まで触れたことがない分野があるため、主体的に研修に参加することやモチベーションを保つことを難しく感じる時もあります。しかし「ビヨンドトゥモローの仲間も、みんなそれぞれの場所で頑張っているから私も頑張ろう」という気持ちが、これまで何度も研修への主体的な参加を後押ししてくれました。

ビヨンドトゥモローでの経験は、社会人になった今でも毎日役立っていると感じます。自分が今置かれている環境が当たり前ではなく、自分の努力以上に沢山の人の支えによって成り立っているということは、私にとって重要な気づきの一つでした。

また、大学でも仕事でもそうですが、発言の機会を逃さない、自分から積極的に動く、何かのワークの際にリーダーシップをとるなどの行動も身につきました。ビヨンドトゥモローで色々な経験をしたことが、今の自分の自信に繋がっていて、どこかで頑張っている仲間の存在が、日々のモチベーションになっています。「私にもできるはず」と思って行動を起こせるのはビヨンドトゥモローがあったからです。

これから数年は、その時々自分に求められていると感じる選択を続けていき、結果として使命が果たせたら良いと思っています。まず目の前の仕事に誠実に取り組んで成果を出し、自分に足りないスキルを身に着ながら、長期的なキャリアを考えて行きたいです。



社会のために何かしようとしている仲間との出会いが、  
一歩踏み出す勇気をくれた

株式会社 技研製作所  
松藤 江巳吏さん



高校生の時にラオスの学校建設活動に取り組んでおり、高校卒業後もその経験を生かしてできることはないのかを考えていたときに、先生からビヨンドトゥモローを勧められ、中でも海外研修プログラムに魅力を感じたため応募しました。

ビヨンドトゥモローでは、各界で活躍されている方々と会うことができ、その方たちに自分の経験を話し、直接背中を押してもらえたことがとても印象的でした。ビヨンドトゥモローのプログラムを通して、遠くに感じていた社会をより身近に感じられるようになりました。

ビヨンドトゥモローで出会った仲間の話から、津波は多くの人命や財産を奪う恐ろしいものだと教えてもらい、世界中で安心安全に暮らせる社会を実現したいと考え、今は建設や土木工事で基礎杭の打ち抜きに用いる機械を開発する会社で働いています。基礎杭は堤防を作るのに用いられ、耐震対策にも用いられていて、自分の働きが人々の人命や財産に直結する、とてもやりがいを感じる職場です。これまで触れてくることのなかった機械について日々学ぶことが多く、社会人になってもまだまだ勉強し続けなければならないと感じています。

ビヨンドトゥモローに参加して、社会のために何かしようとしている同世代の仲間と出会い、視野を広げてもらったり、一歩踏み出す勇気をもたらしたりした経験が現在も生きています。社会のために自分も何かしたいという思いを持っている仲間との出会いはかけがえのないものでした。

今後は、世界中の人が安心安全に暮らせる社会を実現するために、自分にできることを模索しながら限界をつくらずにチャレンジし続けたいと考えています。



ビヨンドトゥモローで学んだ「自分との対話」の大切さは、  
社会人になった今でも生きている

IBM Japan, Ltd. コンサルタント  
熊谷 栄さん



高校3年生の時に、グローバルという言葉の響きや、同じ境遇の仲間と出会えることへの期待、そしてビヨンドトゥモローが掲げる「逆境は優れたリーダーを創る」というメッセージに惹かれ応募しました。

ビヨンドトゥモローのプログラムでは様々な経験をさせていただきましたが、一番の学びは「自分との対話」の大切さです。私が参加したビヨンドトゥモローのプログラムには必ずリフレクションという自省の時間が設けられていました。自分は何者なのか、どんな経験をして何を考えどこへ向かおうとしているのか、普段の忙しい日々の中で立ち止まって考えることの尊さを教えてもらいました。また、自分が他の参加者の友人たちの過去や思想に触れることで衝撃を受け、多様な生き方や価値観に触れて視野が確実に広がりました。

就職を考える際は社会の役に立つ仕事をしたいと思い、そのためには専門性とその専門分野の将来性が必要だと強く思ったので、現在はIT企業でコンサルタントとして働いています。通信やメディア、エンターテインメント企業様に対してDX推進支援を行っており、日本全体の経済生産性を向上させるにあたって必要不可欠なDXを足元から着実に進められていることにやりがいを感じています。

ビヨンドトゥモローでの一番の学びである「自分との対話」は、今でも自分自身の人生をよいものにするうえで役に立っています。就職し、結婚し、子どもが生まれ、ライフステージが変わる中で会社や家庭での立場や役割に知らず知らずのうちに雁字搦めになり、自分自身が規定されてしまいがちですが、自分が何者か常に問い続けることなくして、人生を「良く」生きることができないと思います。自分の過去と現在、そして未来はどうありたいか、そのために今何をすべきか、自分で自分を見つめなおし、定義することで自分の人生がより豊かになると信じています。

将来は家族みんな健康で幸せに暮らせていれればと思っています。一見簡単なことに思えますが、そのためには社会が安定していなくてはならないので、少しでもそんな社会の一翼を担えるような人間でありたいと思います。



多種多様なバックグラウンドを持つ人たちとともに  
活動をする中で、誰も置いていかずにゴールまで走りきる  
ためのマネジメントスキルが身についた

一般社団法人東の食の会 事務局代表  
木村 拓哉さん



高校生の時に「逆境は優れたリーダーを創る」というメッセージに興味を持ち、また SNS でプログラムの具体的な様子を見てビヨンドトゥモローに惹かれ、応募しました。

ビヨンドトゥモローのプログラムでは、それぞれ得意領域やコミュニケーションのスタイルが違うメンバーをまとめることや、誰かを置いていかずにゴールまで走り切るマネジメントの意識が大きな学びでした。また、長年プログラムで一緒だった後輩が、経験を重ねるごとに目つきが変わり言葉が変わり、自身のビジョンを抱いて行動に移していく様子が、まさに一人の「リーダー」が立ち上がる瞬間だったと思い、非常に印象に残っています。



▲写真上段右端

学生時代から「東北×食」を人生のテーマとして活動しており、現在も東北と食に関わる環境で働いています。現在は商品プロデュースや PR イベントの企画実行にも携わっており、東北の食の生産者さんの熱い想いや力をどれだけ社会に届けられるか、という点でやり甲斐があります。また昨年からは団体全体のマネジメントを任されているので、社会的インパクトと経営の両立の難しさを感じながら日々仕事をしています。

ビヨンドトゥモローの経験によって、多種多様なバックグラウンド・考えを持つ人たちと何かをまとめることや、実際に具現化する力が鍛えられたように感じており、それは今でも役立っています。

今は離れたところから携わっていますが、いずれは自分自身も故郷である東北に根を張りながら地域に貢献する存在でありたいと考えています。



ビヨンドトゥモローで  
「周囲との協調を優先させなければ意味がない」  
と思える体験ができた

放射線技師  
鈴木 博文さん



高校生の当時、児童養護施設で生活しながら進学に必要な奨学金を探していました。その時に、ビヨンドトゥモローの返済不要の奨学金を知り、まずは3泊4日の国内研修である「ジャパン未来リーダーズサミット」に応募し、その後2年間の「ジャパン未来スカラシップ・プログラム」に応募しました。

ビヨンドトゥモローのプログラムに参加することで、協調性を考えるようになった強烈な経験があります。

海外研修プログラムでアメリカに行った際、自分のチームだけ提言発表ができないという事がありました。途中までは提言の作成をしていたのですが、発表が近づくにつれてチーム内で意見が対立してきてしまいました。

その時、誰が悪かったのかと考えた時、誰も悪くなかったと思います。その時にあったいくつかの意見を無理やり合わせるのではなく、意見の折り合いを見つけることの重要性に気がつきました。それまで、自分の意見を主軸に据える事を重要視していた自分にとって、「周囲との協調を優先させなければ意味がない」と思う体験でした。それから、周りの意見を聞いて、集団のなかで調整役に回るが増えました。

将来就きたい職業については、同じ児童養護施設に住むほとんどの学生が進学できないなか、奨学金を頂ける事になったため、安定した職業に就きたいという自身の希望に加え、他の人の助けになりたいとも思いました。放射線技師の仕事は、奨学金を応募する書類の「あなたの夢はなんですか？」という問いに答えるとき、初めて意識し始めました。アメリカンフットボールでラインマンをしていた経験から、あまり表に出ない「緑の下の力持ち」となって働く事が好きだと感じていたことや、医療を支えたいという思いがありました。放射線技師の仕事は、直接患者さんとの関りは少ないですが、初めて病気を確定する立場でもあり、放射線技師は治療のスタートを支える仕事だと思います。

世界でもトップレベルの技術を持つ日本の医療現場で、自分の働きが患者さんにとって重要な働きとなることにやりがいを感じています。将来は、コロナ禍なのですぐとは言えませんが、できれば海外にしばらく行きたいと思っています。とくに中国で医療系のご縁があれば、すぐにでも現地に赴き、活動できればと考えています。





## 役員・支援者からのメッセージ

### 「自らを信じる」ことができる社会を実現したい

楽天グループ株式会社  
常務執行役員チーフウェルビーイングオフィサー

小林 正忠



創設から理事を務める私がこのビヨンドトゥモローを通じて実現したい世の中は、一人一人の若者が「自らを信じる」ことができる社会です。また、彼らにとって我々は、そんな社会との接点の1つであり、「私がいていい場所=居場所」で在りたいと思っています。



経済が発展しても、技術が進歩しても、様々な困難な状況にある若者は少なくありません。多様な生き様、多様な価値観、一見すると「常識」では考えられないような意思決定を下す若者たち。そんな彼らの居場所でありたいと思いつつ、実際には彼らから多くの気づきや刺激をもらっています。

これからの社会は多様性の中でお互いを尊重しながら共存していくことが求められますが、彼らと共に未来を描いていくことを楽しみにしています。

卸売業 IT部門 セクションリーダー  
石原 昌尚

ビヨンドトゥモローの掲げる「逆境は優れたリーダーを創る」という言葉には、「逆境を経験したからこそ他人の苦しみや遠く離れた地の課題へも共感し、当事者意識を持って解決へ向けて行動できるようになって欲しい」という願いが込められていると理解しています。震災や家庭環境により、いまこのときの条件下では恵まれないかもしれませんが、志ある若者が機会を得て挑戦し、心優しいグローバルリーダーへ成長できるとしたら、なんと素晴らしいことでしょうか。

私は、このビヨンドトゥモローの活動が少しでも続き、埋もれていた才能たちが活躍の場を得て欲しいと思い、微力ながらボランティアスタッフとして関わらせていただいています。普段はしががない会社員ですが、ひとりの社会人として、先輩として、自分の経験が学生たちの挑戦を後押しする支えになることを願っています。



2021年度 協賛企業・団体

あしなが育英会 会長  
玉井 義臣

あしなが育英会は50年間、経済的逆境にある遺児たちへの奨学金、海外研修、街頭募金、心のケアなどの活動を通じて「広く人類社会に貢献する人材の育成」を行ってまいりました。

本会はビヨンドトゥモローが掲げる「逆境は優れたリーダーを創る」という精神に強く共感し、共に新しい社会を創出していく仲間であると考えております。この3年間に2名の本会職員の長期出向や、本会が主催する心のケアに関する研修の提供などを通して協力をしてきました。人的交流を通じた職員の相互成長によって、ビヨンドトゥモローとともに、若者たちの未来に貢献できることを嬉しく思っております。



### 想いを創り、伝えるに寄り添い、世界に彩りを ～ オンデマンドソリューションで叶える ～

キンコーズ・ジャパン株式会社  
広報・サステナビリティ推進室 マネージャー

野上 朝子



当社の母体となった米国キンコーズは、カリフォルニアで大学生向けコピーショップとして創業した歴史があります。多くの学生や起業家と一緒に成長してきた当社において、自身の逆境に負けず、大きな志を持った若い方を支えるビヨンドトゥモローの活動に、微力ながらも力となれることは、大変嬉しいことです。印刷物を通してのサポートを2013年から継続させていただいておりますが、昨年度は、沖縄スプリング・プログラム用の横断幕も作成させていただきました。その横断幕を囲んだ集合写真には、参加された皆さんの笑顔、未来への想いが溢れていました。その想いを大切にいただき、今後の皆さんの成長を心より応援しております。

アコム株式会社  
財務第一部 広報・IR室 主任

萩生田 記央



MUFGグループでは、役職員一人ひとりが社会貢献活動のアイデアを自ら考え、具体的に行動するための活動予算を会社が支援するという枠組みがあります。

その枠組みを活用しこの度、ビヨンドトゥモローの活動を微力ながら支援させていただきました。その場限りではなく、未来に向け継続的に支援されている「逆境を経験した若者の支援活動」に強く感銘を受けました。逆境を経験したからこそ強く太い信念を築き未来を切り開くことができるのだと思います。同じ地に生を受けた“人”だからこそ共に支え合うことが大切なのだと思います。今回の活動を通して、ビヨンドトゥモローのみなさんに携わることができたこと、誇りに思います。これかも応援しております。

## ご支援のお願い ～私たちの活動がサステナブルであるために～

### ビヨントゥモローの理念 “逆境は優れたリーダーを創る”

#### ミッション

困難を経験した若者が共感力ある人材として成長し、社会の各所で活躍することで、寛容な社会を実現する。

#### ビヨントゥモローの価値観

#### 1 短期的な弱者救済を目的とせず、時代や地域を越えて多様な価値観が共生する社会の実現を志す

ビヨントゥモローの目的は個々の学生の支援にとどまりません。彼らが将来、それぞれの道で輝くことで、困難を経験した人の価値観が反映される社会の実現を目的としています。

#### 2 挫折や失敗を含む多様な生き様を尊重する

若者たちが前に進んでいく過程においては、失敗や挫折があり、その経験が人を成長させます。ビヨントゥモローは、それぞれが安心して失敗できる環境を提供していきます。

#### 3 困難な経験は共感力をはぐくむ上での糧であり、逆境にある若者は弱い存在ではない

ビヨントゥモローが逆境にある若者を応援するのは、彼らがかわいそうな存在だからではありません。それまでの困難は負の出来事ではなく、大切な財産であると考えています。

#### 4 社会の各領域のステークホルダーの知見を結集

目指す社会の実現のためには、幅広い領域における知見や、領域を越えた連携が重要になります。あらゆる領域のステークホルダーが連携することで、ビヨントゥモローの活動が社会にもたらすインパクトの最大化をめざします。

ビヨントゥモローの活動の全てが、活動の趣旨にご賛同くださった多くの企業・個人の皆様からのご寄付・ご支援によって支えられています。

困難な体験を糧に、前に進もうとする若者を応援すべく、皆様のご支援をお願い申し上げます。

下記ウェブサイトから直接ご寄付のお申込みをいただくことができます

<https://beyond-tomorrow.org/donate/>



ご支援についてのお問い合わせ先

電話 03-5453-8030

電子メール [info@beyond-tomorrow.org](mailto:info@beyond-tomorrow.org)



#### オンライン決済、銀行振り込みなどによるご寄付

銀行振込、クレジットカード払い、Tポイントなどで、ご寄付をいただくことができます。詳しくは、当財団ウェブサイト (<https://beyond-tomorrow.org/>) またはお電話 (03-5453-8030) でお問い合わせください。

公益財団法人信頼資本財団とのパートナーシップにより、信頼資本財団を通じたご寄付で、寄付金控除の優遇措置を受けることができます。



信頼資本財団の  
該当ページへ



#### 遺贈によるご寄付

遺言状や遺言信託による遺贈寄付の他、相続によるご寄付、お香典のご寄付を承っております。ご自身の財産や大切な方のご遺志を、未来を担う若者を応援する活動に繋げることができます。遺言書の作成や、財産のご寄付について相談できる、信託銀行及び弁護士などの専門家のご紹介を希望される方は、当財団までお問い合わせください。(お電話：03-5453-8030)



#### 商品やサービスによるご支援

物品やサービスの無償でのご提供や、オフィスなど施設・会場の提供、プロボノでのアドバイザーのご協力など、様々な形でご支援をいただくことができます。

### 一般財団法人教育支援グローバル基金及びビヨントゥモローについて

一般財団法人教育支援グローバル基金は、共感力ある次世代のグローバル・シティズン(地球市民)の輩出をめざす「ビヨントゥモロー」の運営を行っている非営利の財団法人です。「逆境は優れたリーダーを創る」を理念に、次世代を担う資質を持ちながらも、親との死別・離別を経験したり、児童養護施設に暮らすなどの困難を経験した若者を対象に、奨学金支給及び人材育成プログラムの開催を行い、広い視点、深い共感力をもって社会のことを考えることのできる人材輩出をめざしています。

#### 【組織体制】

理事	橋本 大二郎 (理事長)	元高知県知事
	小林 正忠	楽天株式会社 取締役常務執行役員
	木山 啓子	特定非営利活動法人 ジェン (JEN) 共同代表理事
	本庄 竜介	グリーンコア株式会社 代表取締役
評議員	村瀬 悟	メイヤー・ブラウン法律事務所 弁護士
	塩崎 恭久	前衆議院議員
	宮城 治男	NPO 法人 ETIC. 創業者
アドバイザー	山崎 直子	宇宙飛行士
	竹中 平蔵	慶應義塾大学 名誉教授・東洋大学 教授
	阿川 尚之	慶應義塾大学 名誉教授・同志社大学 教授
監事	櫻井 本篤	前ジャパンソサエティー NY 理事長
	上滝 賢二	元日本放送協会理事

【情報公開】 ビヨントゥモローの事業報告書、財務諸表等の詳細はホームページにてご覧いただけます。

【設立年月日】 2011年6月

【ウェブサイト】 <https://beyond-tomorrow.org/>

【所在地】 〒150-0046  
東京都渋谷区松濤 1-26-18  
園ビルディング 1F

【電話】 03-5453-8030

【FAX】 03-6745-9100

【メール】 [info@beyond-tomorrow.org](mailto:info@beyond-tomorrow.org)

Facebook と Instagram を始めました！

プログラムの詳細などご覧いただけます。



[@beyonddtomorroworg](https://www.facebook.com/beyonddtomorroworg)



[@beyonddtomorrowjapan](https://www.instagram.com/beyonddtomorrowjapan)